

「大学教育再生加速プログラム（AP）」フォローアップ要項

平成28年7月15日

大学教育再生加速プログラム委員会

1. 目的

事業の効果的な実施及び事業目標の着実な達成に資するため、選定された各大学の進捗状況や成果等を適切に把握・確認し、必要に応じて指導・助言を行う。

2. 対象・時期

選定された各大学等について、公募要領に基づきフォローアップ（状況調査）を、毎年度（中間評実施年度は除く）実施する。

3. 実施体制

(1) フォローアップは、大学教育再生加速プログラム委員会（以下「委員会」という。）の下に設置するフォローアップ部会（以下「部会」という。）を中心に行う。

(2) 部会は、選定された各大学等（以下「大学」という。）に関し、選定に係る審査経過等を熟知している者のほか専門家や有識者によって構成することとする。

(3) 部会は、大学ごとに、フォローアップ担当委員（以下「担当委員」という。）として、原則として部会委員のうち2名の委員を割り当てる（主担当委員1名、副担当委員1名）。

4. 実施方法

(1) 大学（共同申請の場合は代表校）は、中間評価を実施する年度の前年度を除く毎年度の事業終了時に実施状況報告書（別紙1）を作成し、委員会に提出する。

(2) 部会は、5. に示す観点に基づき、大学の取組が適正に実施されているかどうかを提出のあった実施状況報告書で確認し、必要がある場合には現地視察を行い、その際の指導・助言を含むフォローアップ報告書を委員会に報告した上で、大学に開示する。

i) 部会は実施状況報告書及びフォローアップ報告書（別紙2）を基に、現地視察を実施する取組を決定する。

ii) 部会の担当委員は、現地視察を実施した大学の取組について、視察の結果も踏まえてフォローアップ報告書に現地視察での指導・助言を追記する。

iii) 部会はフォローアップ報告書（別紙3）についてその内容を確認し、必要に応

じてコメントを付して委員会に報告した上で大学等に開示する。

(3) 委員会は、フォローアップ結果の概要を作成し公表する。また、フォローアップ報告書に示された課題及び現地視察での指導・助言に対する大学の対応状況については、事後評価において確認し、評価に反映させることとする。

なお、フォローアップの過程で、進捗状況に著しい問題があると部会が判断した場合は、委員会へ報告した上で委員会の決定に基づき、事業の中止も含めた計画の見直しを求めることもありうるものとする。

5. フォローアップの観点

以下について、当初の計画及び平成 28 年度に提出した計画調書における計画（選定時や中間評価時に付された意見等を踏まえ当初の計画を見直している場合は、見直し後の計画）に沿って順調に進捗しているか確認する。

- ・教育改革の実施状況は十分なものとなっているか。
- ・選定時及び中間評価時に付された意見等への対応はなされているか。
- ・達成目標と事業内容は計画に沿って順調に進捗しているか。
- ・学内の実施体制は補助期間終了後の継続発展も含め適切に構築されているか。
- ・事業経費の支出内容は、費用対効果を含め、妥当であるか。
- ・その他の必要な事項

6. 現地視察の実施方法等

(1) 参加者

＜部会委員＞

部会委員 2～3 名。1 名は担当委員とする。

＜大学側対応者＞

- ・＜必須＞ 事業担当者、事業参加学生
- ・＜必要に応じ＞ 関係教員・職員

(2) 現地視察スケジュール例 （概ね 3 時間半程度）

時刻	事項	所要時間
13:30～13:45	部会委員打合せ	15分
13:45～15:00	事業担当者等からの説明及び質疑応答	75分
15:00～16:00	事業参加学生との意見交換	60分
16:00～16:40	教育現場・施設等の視察	40分
16:40～16:55	部会委員打合せ	15分
16:55～17:00	講評	5分

7. その他

(1) 公表等

- i) 部会の会議及び会議資料は、原則、非公開とする。
- ii) 大学の作成する実施状況報告書における「進捗状況の概要」及びフォローアップ結果の概要については、日本学術振興会ホームページにおいて公表する。
- iii) 部会委員の氏名等は、進捗状況の概要及びフォローアップ結果の概要の公表後に公表する。

(2) 利害関係者の排除

大学に利害関係のある部会委員は、当該大学のフォローアップを行わないものとする。

(利害関係者とみなされる場合の例)

- ・部会委員が現在所属し、又は3年以内に所属していた大学（共同申請校を含む）に関するもの
 - ・その他部会委員が中立・公正に審査を行うことが困難であると判断されるもの
- 部会委員は上記に留意し、利益相反の事実あるいはその可能性がある場合には速やかに事務局に申し出るとともに、当該大学についてのフォローアップを行わないこととし、会議においても当該事案に関する個別審議については加わらないこととする。

(3) 情報の管理、守秘義務、実施状況報告書の用途制限

- i) フォローアップの過程で知り得た個人情報及び審議内容に係る情報については外部に漏らしてはならない。
- ii) 部会委員として取得した情報（実施状況報告書等各種資料を含む）は、他の情報と区別し、善良な管理者の注意義務をもって管理する。
- iii) 審議に係る資料等は、事業のフォローアップを行うことを目的とするものであり、その目的の範囲内で使用する。

大学教育再生加速プログラム（AP）
平成〇年度フォローアップ 実施状況報告書

大学等名		整理番号	
テーマ			
取組学部等名	共同申請の場合は全大学等名を記載		
事業期間	平成 年度～平成 年度（ 年間）		

事業推進責任者	職名・氏名	
事務担当者	職名・氏名	
	電話番号	
	FAX番号	
	E-Mail	

<概要>

事業の概要（※400字以内）
申請書から事業の概要・事業のポイントを転載

(テーマ： 、大学等名：)

進捗状況の概要（1 ページ以内）

平成 27 年度の進捗状況を記入

（テーマ： 、大学等名： ）

<実施内容>

教育改革の実施状況（6 ページ以内）			
i) 学位授与方針等の状況			
【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）			
対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
【実施状況】			
平成 27 年度		平成 28 年度以降	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: 80%; margin: auto;">平成 27 年度の実績・進捗状況を記載</div>		<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; width: 80%; margin: auto;">平成 28 年度以降の取組状況を記載</div>	
ii) 授業計画（シラバス）の策定			
【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）			
対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
【実施状況】			
平成 27 年度		平成 28 年度以降	
iii) 単位の過剰登録の防止			
【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）			
対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
【実施状況】			
平成 27 年度		平成 28 年度以降	

（テーマ： 、大学等名： ）

--	--

iv) FD の実施

【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）

対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
-----	--	-----	--------------

【実施状況】

平成 27 年度	平成 28 年度以降

v) 客観的な成績評価基準の運用

【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）

対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
-----	--	-----	--------------

【実施状況】

平成 27 年度	平成 28 年度以降

vi) 入試日程等の遵守

【指標への対応状況】（対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載）

対応済		未対応	（全学での対応完了時期）
-----	--	-----	--------------

【実施状況】

（テーマ： 、大学等名： ）

平成 27 年度	平成 28 年度以降

vii) 設置計画履行状況等調査への対応状況

【指標への対応状況】(対応済又は未対応に○。未対応の場合は対応時期を記載)

対応済		未対応	(全学での対応完了時期)
-----	--	-----	--------------

【実施状況】

平成 27 年度	平成 28 年度以降

(テーマ： 、大学等名：)

選定時の意見等への対応状況（1 ページ以内）

選定時の意見等を転載の上、平成 27 年度までの実績・進捗状況を記載

達成目標と事業内容（1 ページ以内）

【定量的な数値目標の達成状況】

目標	H26 実績	H27 実績	H29 目標	H31 目標
(例) アクティブ・ラーニングを導入した授業科目数の割合				

【取組内容・成果】

達成目標と具体的な事業内容を踏まえ、平成 27 年度の定量的な数値目標の達成状況や取組の成果について記載

(テーマ： 、大学等名：)

平成27年度の実績・進捗状況を記載

文部科学省に提出した平成 27 年度の実績報告書のうち、「費目別収支決算書」に記載した「補助事業に要した補助対象経費の額等」を費目毎に転載し、その内訳として、「補助対象経費別内訳対比表」に記載した「実支出額」を転載

<その他>

その他、取組の成果等（0.5ページ以内）

取組の成果等特記すべき事項等があれば記載

(テーマ： 、大学等名：)

部会提出用

大学教育再生加速プログラム(AP)
平成〇年度フォローアップ報告書

作成者 _____

大学等名		整理番号	
テーマ			
取組学部等名			

1. 教育改革の実施状況

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

2. 選定時の意見等への対応状況

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

3. 達成目標と事業内容

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

4. 学内の実施体制

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

5. 事業経費

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

6. その他、取組の成果等

■順調に進捗している点

■課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

7. 全体の取組について

■順調に進捗している点

■課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

【現地視察について】

現地視察の必要の有無

- 有 (※現地視察の必要理由及び事前質問事項)
無

※現地視察を必要とする理由

※事前質問事項(フォローアップ部会で現地視察の必要ありとされた場合のみ大学へ送付)

- ①
②
③

9. 現地視察での指導・助言 ※現地視察後記入。

委員会報告用・
大学開示用

大学教育再生加速プログラム(AP)
平成〇年度フォローアップ報告書

大学教育再生加速プログラム委員会
フォローアップ部会

大学等名		整理番号	
テーマ			
取組学部等名			

■ 順調に進捗している点

■ 課題(今後対応状況の確認を必要とする点)

■ 特筆すべき成果

■ 現地視察での指導・助言 (現地視察を行った場合のみ記載)